

日本説得交渉学会会報

THE JAPANESE SOCIETY OF PERSUASION AND NEGOTIATION



目次

日本説得交渉学会 第12回研究大会実施報告

大会実行委員長
田村次朗
(慶應義塾大学)

大会に参加して
勝井裕美子
(大阪市立西高等学校)

研究室紹介
渡邊竜介
(サンディエゴ大学)

理事会議事報告

学会賞
講演会報告
学会ロゴマーク

説得交渉学研究第11巻

日本説得交渉学会第12回研究大会 実施報告

大会実行委員長 田村次朗 (慶應義塾大学法学部教授)

去る2019年11月2日(土)、港区三田にある慶應義塾大学三田キャンパスにおいて第12回研究大会が開催されました。慶應義塾大学三田キャンパスは、1858年に福澤諭吉先生が藩命により江戸築地鉄砲洲の中津藩中屋敷内(現在の東京都中央区明石町、聖路加国際病院のあたり)に蘭学塾を開いた後、現在の三田キャンパスに1871年に移転してから慶應大学の歴史と共に歩む非常に歴史のある校舎となっております。

福澤諭吉は、『学問のすすめ』において「実学」を提唱し私達の説得交渉学会が目指している実務とアカデミズムの融合の精神を世に普及させたパイオニアでもあります。研究大会当日、共通の想いを共有することのできる歴史のある三田キャンパスでご参加者の皆様を迎えることができ嬉しく思いました。

研究大会当日は14時00分より理事会が開かれ、今後の学会の発展のための政策を中心に議論が交わされました。中でも、学会ロゴの策定やホームページの運営についてという本学会を周知して頂く議案に関して活発な議論が行われました。

研究発表は15時10分から行われました。以下に発表タイトルと発表者、討論者のお名前を列記いたします(敬称略)。

【研究発表】

・「商業高校生向けPBLの実践を通じたマーケティング入門教育のあり方に関する考察」

山川 悟 (東京富士大学)

討論者：山下 史郎

・「東京富士大学における産学連携プログラム「ダシズ ギルトフリー アイスクリームラボ」」

児玉 陽平 (東京富士大学)

討論者：隅田 浩司 (田村次朗 代読)

【パネルディスカッション】

・「リーダーシップ基礎教育への挑戦」

田村次朗 (慶應義塾大学法学部教授)

富岡 洋平 (株式会社THINK AND DIALOGUE 代表取締役社長)

松澤 桂子 (NPO法人コミュニティ・オーガナイズ・ジャパン 副代表理事)

また、その後19時00分からは慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュートと共催でリーダーシップの大家であるロバート・キーン教授のご講演を頂きました。

本学会では本学問分野の更なる隆盛のために、上記の様な海外のアカデミズムとの連携や研究大会における実務家の方によるご講演といった実務との交流など様々な企画を行う予定です。

改めまして、会員の皆様もぜひご参加・ご協力賜りますようお願い申し上げます。お借りしてお願い申し上げます。

大会に参加して

勝井裕美子

(大阪市立西高等学校)

私は商業科の教員として、「ビジネス基礎」や「マーケティング」の授業に交渉学を取り入れています。高等教育の早い段階で交渉の知識を身に付けることは、生徒たちの将来に役立つものと考えているからです。説得交渉学会ではどのような発表がされているのか、緊張しながらの初参加となりました。

東京都の商業高校に導入される新科目「ビジネスアイデア」に向けての実践的な取り組みや、東京富士大学における産学連携プログラムについての発表は、刺激的で多くの情報を得ることが出来ました。どちらの発表も、講座担当者の周到な準備が必要であることや、協力企業との十分な理解と協力を得なければ実現は難しいものであることを感じました。

また、パネルディスカッションでは「自分を語る」ことについて、3人のパネラーから発表がありました。コミュニケーション能力の重要性はよく耳にしますが、その育成方法としては学生が論議し語ることによって学びレベルアップ教育が大切だと訴えておられました。先生方の「説得交渉」への熱意が伝わり、私も微力ではありますが職場で実践していきたいと思いました。



研究室紹介

渡邊竜介

(サンディエゴ大学)

サンディエゴ大学 (University of San Diego) は1949年に設立されたカトリック系の私立総合大学です。スペイン・ルネサンス様式のキャンパスは、米国でも有数に美しい街として知られるサンディエゴ市街と西海岸を見下ろす高台に位置し、The Princeton Reviewの最も美しいキャンパス・ランキングで2017年に全米トップに輝きました。そして私が所属するリーダーシップ&教育科学学部 (School of Leadership and Education Sciences: SOLES) は、米国で最初にリーダーシップ学の博士課程を創設したリーダーシップ学の名門です。

本学では、学士課程から修士課程・博士課程、リーダーシップ・コーチ認定講座、そしてエグゼクティブ・トレーニングに至るまで、幅広く様々なリーダーシップ講座が提供されています。学士課程では全ての学部の学生を対象にリーダーシップ副専攻課程を用意し、現在20のクラスが開講されています。

私は以前、ハーバード大学でリーダーシップ教育について研究していました。ハーバードと聞くと

リーダーシップ教育が大変盛んだと想像されるかもしれませんが、学士課程であるハーバード・カレッジではリーダーシップという名のつくクラスは一切提供されていませんでした。リーダーシップ教育が盛んなのは、ビジネス・スクール、ロー・スクール、行政大学院であるケネディ・スクール、そして教育大学院や公衆衛生大学院といった、修士課程の大学院でした。各大学院でそれぞれ分野にあったリーダーシップ科目を個別に提供しています。例えば、ビジネス・スクールでは組織行動論と経営管理論に基づいた企業リーダー向けの育成プログラムが主流です。一方、教育大学院では発達心理学や心理療法に基づいたリーダーシップ論が中心になります。

一方サンディエゴ大学では、SOLESが中心になって全校のリーダーシップ・プログラムを提供している点が、特徴です。そのため一学問領域にとらわれない学際的なプログラムの提供が可能になっています。例えば、夏と冬に年2回、週末を使って開催される集中プログラムは、適応型リーダーシップとグループ・ダイナミクスをインテグラル理論に基づいて体験する大変実践的なリーダーシップ・プログラムです。本プログラムでは、自分自身と自分を取り巻くシステムについて徹底的に観察し内省することが要求されます。精神的に非常にタフなプログラムですが、その分そこでの学びと発見は生涯にわたって効果を発揮する可能性があります。また、学部生向けの授業では、私は毎回初めに数分間の瞑想の時間をもちます。現在の学生は絶えずネットに繋がっており、静かに内省する機会がほとんどないので、私の授業ではまず外部



の雑音からディスコネクトしてもらいます。初めはなかなか上手いかわない学生が多いようですが、慣れてくるとその効果に気づき、他の大事な場面に臨む際にも気持ちの切り替えのために使っているようです。こうした実践的なリーダーシップを、研究者として理論的に確立し、実践者として広めていくことが、私の夢です。

理事会議事報告

- (1)開催年月日 2019年11月2日
(土)
(2)開催日時及び場所 2019年11月2日 14:00～
慶應義塾大学東館ホール(8階)
(3)理事・監事の数および出席理事・監事の数並びにその出席方法
理事6名 監事0名 出席理事・監事 本人出席 6名 委任3名
(4)出席理事の氏名
田村次朗、榊博文、柴田純男、下村正樹、山川悟、山下史郎
(5)議長 田村次朗

(6)報告事項1号から10号までが議長から報告され、承認された。

〈報告事項〉

1. 神奈川大学において第11回大会(2018年10月20日高田尚行大会委員長)無事終了。
2. 第12回大会を、慶應義塾大学(田村次朗大会委員長)で開催することを決定。
3. 学会誌第10巻刊行。
4. 会報第10号発行。
5. 学会誌編集体制を変更。
編集委員長 山川悟
副編集委員長 三苫 民雄
山下 史郎
編集幹事 田上由紀子
編集委員 小林 稔
柴田 純男
田村 次朗
武井 涼子
6. 2019年度講演会を7月13日慶應義塾大学で開催(後述)
7. 2019年度学会賞選考(後述)
8. 2018年度学会収支報告
9. 新規ご入会者 14名(敬称略)
(ご入会順) 三好 陽介 大久保 和孝 遠藤 典子 石原 紀彦 田上 由

紀子 杉田 一真 堀岡 治男 平賀 敦巳 岩崎 重国 片山 源治郎
渡邊 竜介 渡邊理佐子 佐藤 信雄 梁瀬 泰孝

10. 退会者 1名(敬称略)

福田 敏彦

(7)審議事項議案

〈審議事項〉

1. 学会ロゴについて
2. ホームページへのプロフィール記載について
3. ホームページの運営について
4. 理事枠拡大のご提案
5. 名誉会長へのご推薦について

(8)議案別の審議の要旨

1.学会ロゴについて
学会ロゴとして次のものを採用。



2.ホームページへのプロフィール記載について

・ホームページの役員名簿に名前が記載されている人は、自由に自身のプロフィールを記載することが可能という取り決めを採用。

・名前の横にアイコンを載せる形でプロフィールを掲載するという榊名誉会長からのご提案。

3.ホームページの運営について

・ホームページの運営権限は担当理事が有し、事務局が随時更新作業の手伝いをするという体制の採用。

4.理事枠拡大のご提案

・最大15名までの拡大で承認。

5.名誉会長へのご推薦について

・兼子良夫前会長の大変なご尽力を称えて名誉会長への就任をご提案、承認。

(議長 田村次朗)

2018年度学会賞

[論文賞]

小竹直子

「外国人留学生の日本語による交渉力への影響要因」(2018) 説得交渉学研究第10巻

[出版賞専門書部門]

三苫民雄共編著

「Low,Rights and Social Values in Japan and Hungary」(2019) 中部日本教育文化会



[出版賞普及啓蒙書部門]

田村次朗「ハーバード×慶應流 交渉学入門」(2014) 中央公論新社



講演会報告

日本説得交渉学会2018年度講演会

「2019年度説得交渉カフォーラム」

日時 7/13(土) 16時~18時

会場 慶應義塾大学

三田キャンパス南校舎443教室

・石原紀彦氏(株式会社バルクホールディングス代表取締役社長)

「企業はサイバーレジリエンスにどう取り組むべきか」

・渡邊竜介先生

(サンディエゴ大学講師:リーダーシップ学、元ハーバード大学研究員)

「成人発達理論から見るリーダーシップと交渉力」

説得交渉学研究第11巻

「説得交渉学研究第11巻」が2019年12月に無事刊行されました。ご寄稿いただいた皆様、まことにありがとうございました。



2019年度 説得交渉カフォーラム

日本説得交渉学会では、今年度の講演会を開催いたします。本学会の会員様のみならず、学会外の皆さまの積極的なご参加をお待ちしております。お申し込みのうえ、多数ご参加くださいますようお願いいたします。

日時: 7月13日(土) 16時46分開場 18時00分開演
 会場: 慶應義塾大学三田キャンパス 南校舎 443教室
 参加費: 本学会会員・学生・大学院生: 無料
 非会員: 1,000円

【講演者紹介】
 石原 紀彦氏 (株式会社バルクホールディングス代表取締役社長) 03-677-19700
 質問「企業はサイバーレジリエンスにどう取り組むべきか」
 サイバーセキュリティの重要性は、あらゆる企業に波及して経営上の最重要課題の一つとなっております。グローバル化に伴いサイバー攻撃の増加、経済活動への影響と対応の遅れから、経営活動における高度な脆弱性とセキュリティレジリエンスの重要性について考察します。

【講演者紹介】
 渡邊 竜介先生 (サンディエゴ州立大学 心理学部教授、元ハーバード大学研究員) 011-261-11360
 質問「成人発達理論から見るリーダーシップと交渉力」
 人間は人間性にあたる。現実世界を生きる技術や技能(スキル)に加えて、成人発達(発達段階)の観点から見た心理的成長、思考の成熟などについても、本講演では、ハーバード大学のバート・ホーガン教授が提唱する成人発達理論の観点から見る、これからのリーダーシップ開発、そして交渉の発展のあり方について、ご話させていただきます。

【講演者紹介】
 田村次朗氏 (中央公論新社) 03-696-33333
 講演者として、2011年にプロダクション・イメージング(現電通デジタル)を創業、代表取締役社長に就任。2012年ハーバード大学バート・ホーガン教授の協力を得て、2013年8月東京大学に訪問客員として、次世代グローバルリーダーを育成する国際グローバルリーダーシップ開発センターに参画。2014年よりサンディエゴ州立大学にて成人発達理論に基づくリーダーシップ開発を専門に、日本で研究と指導にあたり、現慶應義塾大学(長沙学舎)、一橋大学(長沙学舎)、ベトナム国立大学(ハノイ)にゲスト・フェローとして参加中。2019年 著

©講演会事務局
<http://www.kita.ne.jp/setsuonkenkyukai.html>
 03-696-3333 日本説得交渉学会事務局
info@setsuonkenkyukai.com

役員名簿

名誉会長 榊 博文
名誉会長 兼子 良夫
会 長 田村 次朗
理 事 小林 稔
理 事 柴田 純男
理 事 下村 正樹
理 事 三苫 民雄
理 事 山川 悟
理 事 山下 史郎
理 事 渡邊 竜介

監 事 武井 涼子

日本説得交渉学会

The Japanese Society of Persuasion and
Negotiation

会長 田村 次朗



連絡先 学会事務局 田上 由紀子／橋本 可奈子

E-mail: settokukousyougakkai@gmail.comURL: <http://settoku-kousyou.world.coccan.jp/>

年会費の払込先

みずほ銀行（銀行コード0001）

横浜駅前支店（店番号292）

口座番号（普通）2750613

名義：日本説得交渉学会

ニホンセツトクコウシヨウガツカイ